福　議　委　号
令和８年１１月１３日

福島町議会議長　溝部　幸基　様

経済福祉常任委員会
委員長　佐藤　孝男

所管事務調査報告書の提出について

令和８年９月１４日福島町議会定例会９月会議において決定した、休会中の所管事務調査を終えたので、会議条例第１４８条の規定により、下記のとおり報告する。

記

調査事件	４　行政評価（事務事業評価）について
調査期間	令和８年１０月３０日
出席委員	委員長　佐藤　孝男　　副委員長　小鹿　昭義 委　員　平沼　昌平　　委　員　溝部　幸基
欠席委員	委　員　平野　隆雄
委員外議員	議　員　熊野　茂夫
出席説明員	なし
議会事務局職員	事務局長　鍋谷　浩行　　係　長　山下　貴義 主　任　角谷　里紗

［委員会意見］

調査事件４　行政評価（事務事業評価）について（令和８年１０月３０日調査）

町では、まちづくり基本条例第20条第２項の規定に基づき行政活動を点検し、改善を図るため、令和７年度一般会計決算による行政評価（事務事業評価）を実施し、議会基本条例第10条の規定による決算説明資料として議会に提出した。

議会では、議会のチェック機能の強化と併せて、翌年度予算へ反映させることを目的に、議会としての評価を実施した。

評価方法と結果、来年度に向けての検討については、次のとおりである。

【評価方法】

福島町行政事務事業評価要綱に基づき、全議員が各事務事業の内容を総合的に判断した４段階評価を行い、所管常任委員会毎に評価を示し、総合的な説明を加えた。

【評価結果】

経済福祉常任委員会が所管する３３件の行政評価の結果は、次のとおりである。

「◎」十分評価できる　　：　１件
「○」概ね評価できる　　：３０件
「△」やや不足している　：　２件
「▲」不足している　　：　０件

【来年度の評価に向けての検討】

評価は、項目別点数による評価による現状把握が基本であり、一・二次評価で安易に評価をあげるべきではなく、改善策を対策として示す評価方式であり、現在の予算重視の評価方法では、適切な評価とならない項目も見受けられるため、評価シートの見直しを始めとした事業重視の評価方法に変更する等、評価方法全般の改善を検討されたい。

評価シート内の記載文に誤りが散見されるため、起案・決裁における確認・校正を徹底するとともに、活動指標・成果指標における数値については、要因を加味し検討されたい。

議会による行政評価（事務事業評価）結果表

事務事業名	町の評価内容						議会の評価	
	必要性＋有効性	達成度＋効果性	項目別点数評価	一次評価	二次評価	最終評価	評価	説明
No.15 戦没者追悼式事業	5	4	A	A	A	A	○	戦争の無い平和の誓いを行う行事として、引き続き新たな展開を期待する。（平和宣言はしたが、子供たちをはじめ全町民参加対象とした行事内容の工夫を：総合学習での取組、防災無線で周知し全町民で黙とうする等）
No.16 社会福祉	4	4	A	A	A	A	○	社会福祉協議会の財政健全化については、介護事業を含めた自助努力を積極的に進められたい。引き続き高齢者や低所得者の生活安定のため、行政と密接に連携し社会福祉業務全般について適切に執行されるよう議会としても注視していく。
No.17 高齢者行事	5	3	A	A	A	A	○	行事参加者が漸減しているので、要因を分析し、行事内容・参加方法の検討をされたい。
No.18 在宅福祉事業	5	2	A	A	A	A	○	老人クラブの活発な活動を期待します。
No.19 吉岡総合センター管理運営	4	4	A	A	A	A	○	利用者のニーズに合った適切な管理運営に努められたい。
No.20 学童保育	6	2	A	A	A	A	○	保育体制を確保の上、教育委員会と連携し、特色を持った運営を期待する。
No.21 ごみ減量化対策	7	2	A	A	A	A	△	可燃ごみ排出量は増加傾向にあり、構成町での負担も大きい。無駄なごみを出さない生活様式の改善を徹底指導する検討を。（４Ｒ：リデュース、リユース、リサイクル、リフューズの周知徹底）
No.22 保育所	7	3	A	A	A	A	○	町の宝である子供たちを町ぐるみで育てていく取組の工夫を。（幼児教育強化の視点、周辺施設・人材の活用、すもうの恒常的取組等）
No.23 福祉車輌等購入事業助成	6	3	A	A	A	A	○	有効に活用するよう努められたい。
No.24 社会福祉総務	6	3	A	A	A	A	○	現在の社会状況に鑑み、寝たきり老人等在宅介護手当の増額の検討を強く求める。

事務事業名	町の評価内容						議会の評価	
	必要性＋有効性	達成度＋効果性	項目別点数評価	一次評価	二次評価	最終評価	評価	説明
No.25 重度心身障がい者等ﾀｸｼｰ料金助成事業	5	2	A	A	A	A	○	利用率低迷の要因をしっかり分析し、適切に執行されたい。
No.26 老人福祉	6	3	A	A	A	A	○	緊急警報システムの必要性は理解するが、年々減少する状況にあり、他の福祉事業との統合を検討すべきである。
No.27 健康づくり推進	7	2	A	A	A	A	○	健康づくり推進員と保健師が連携しながら、日常生活の中で健康に対する意識の醸成を促す活動に力点を置かれたい。
No.28 医療対策（保健衛生総務）	5	1	B	B	B	B	○	毎年度貸付実績がない状況であることから、その要因を分析し、今後の対応を検討すべきである。
No.29 いきいき健康ふくしま21推進事業	8	2	A	A	A	A	○	内容の充実を図りながら、事業を推進されたい。
No.30 医療対策（医療対策）	7	4	A	A	A	A	○	広域的な取り組みを進められたい。
No.31 老人保健	7	4	A	A	A	A	○	町立診療所と連携した在宅リハビリ（作業療法士等の配置）を充実させなければならない。
No.32 温泉健康保養センター管理運営	7	2	A	A	A	A	○	町外へ積極的に情報を発信するとともに、周辺環境を整備し、利用満足度を上げる施策を検討する必要がある。
No.33 多面的機能支払交付金事業	5	3	A	A	A	A	○	地域活動組織と連携し、円滑な事業展開を期待する。
No.34 活性化センター管理運営	6	3	A	A	A	A	○	地域文化の活動拠点としての有効活用と、食や歴史等の町内外への情報発信を期待する。
No.35 熊等による被害対策	7	3	A	A	A	A	○	ハンターとの情報共有を積極的に行い現実に合った協力体制が必要。有害鳥獣処理施設の広域化も視野に有効活用を検討されたい。
No.36 利子補給事業	8	4	A	A	A	A	○	関係機関と連携し、円滑に事務を進められたい。

事務事業名	町の評価内容						議会の評価	
	必要性＋有効性	達成度＋効果性	項目別点数評価	一次評価	二次評価	最終評価	評価	説明
No.37 水産加工振興協議会補助	6	3	A	A	A	A	○	原料不足と価格高騰のため、当該補助の検証をしながら、基幹産業を支援する強力な要請活動を進めるべきと考える。加工場従業員の高齢化が進み、地元での確保が難しくなっているので、外国人従業員確保の体制についても町として本格的に検討すべきと考える。
No.38 水産多面的機能発揮対策事業	5	3	A	A	A	A	○	活動組織と連携し、円滑な事業展開を期待する。
No.39 漁村環境改善総合センター運営	5	2	A	B	B	B	△	福島については、改修し現状維持に努められたい。吉岡漁村環境改善総合センターは老朽化が進み危険なため早急に解体すべき。
No.40 製氷貯氷施設運営	6	2	A	A	A	A	○	施設の有効活用を期待する。
No.41 労働者支援	9	2	A	A	A	A	○	職業紹介等の効果的な事業の改善、新規事業の工夫を期待する。
No.42 観光振興	8	2	A	A	A	A	○	観光関連イベントの総括的検討を。町、商工会、観光協会等関係機関の役割分担を明確にし、各イベントの協力体制をしっかり確認すべきと思慮する。
No.43 岩部海岸わくわくクルーズ事業	7	3	A	A	A	A	○	安全運航に留意し、健全運営に努力されたい。
No.44 道の駅（特産品センター管理）	6	3	A	A	A	A	○	内容充実が図られ、道の駅としての評価が上がっている状況にあり、さらなる努力を期待する。
No.45 横綱記念館管理運営	5	3	A	A	A	A	○	貴重な資料を無駄にすることなく両横綱の偉業を大切に顕彰していただきたい。
No.46 青函トンネル記念館管理運営	7	2	A	A	A	A	○	情報発信が不足している。イベントも含めて積極的な施設の利活用を考え、第２青函トンネル構想などの企画展示に積極的に取り組まれたい。
No.47 街灯料助成事業	7	2	A	A	A	A	◎	他の公共施設等のＬＥＤ化も期待する。